

「第6回稲むらの火講座」盛大に終る

「稲むらの火講座」も第6回目となりました。今回は特に、本年度で開館10年を迎えたことも記念しての講座開催でした。

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県の南三陸町にある「南三陸ホテル観洋」の女将阿部憲子さんをお迎えして『東日本大震災から復興へ～1000年に一度の震災は1000年に一度の学びの場』と題して話していただきました。

今回、読売新聞が前日に記事を掲載していただいたおかげで、町外からも多



くの方がきてくれました。用意した資料が足りなくなる事態となりました。

講師が経営しているホテルも2階まで津波が入ってくる中、宿泊客の誘導ばかりでなく、近隣の人々をも高台へ避難誘導したということです。更に、素早く宿泊客や避難者への当日からの食事提供の計画を立てる。

住民は、雪のちらつく中コートもジャンパーも着るのを忘れて避難してきた。血圧の、糖尿病の薬がないという問題がでてきた。

町の中心部は8割が被災した、駅も病院もスーパーも、警察も消防署も役場も消えてしまった。ライフラインがなかなか戻らなかった。電気は2ヶ月も点灯しなかった。水は4ヶ月止まりました。顔も洗えない、手も洗えない。もちろんお風呂へも入れない。雨が降ったらバケツも桶も外に出す。雨水が大切なものです。

今回の講演を聞きながら、全く想像もできていなかった事にショックを覚えました。

和歌山大学主催の

「ワダイの防災カフェ」開催されます

和歌山大学災害科学教育研究センターと国土交通省近畿地方整備局が主催して「ワダイの防災カフェ in 広川町」が「稲むらの火の館」で開催されます。

防災カフェとは

皆さんが日ごろから抱える自然災害や防災・減災に関する疑問・質問などについて、防災分野の専門家と語り合う場、ということです。

参加定員に限りがありますので、「稲むらの火の館」へお問合せください。

開催日 7月22日(土)14:00～15:30
%%

NHK「あすのWa!」で放送

NHK和歌山放送局の番組「あすのWa!」で、「稲むらの火の館」が放送されました。6月4日朝の開館時から夕方まで、撮影班が待機されました。1階の天井付近へも定点撮影のカメラが設置され、館内の動きも撮影されました。

NHK総合テレビでは金曜日に「ドキュメント72時間」という番組がありますが、その1割の7.2時間撮影を



されたということです。当日は、伊勢市と京丹後市から団体様が来られ、県内からの個人客もインタビューを受けていました。終了直前に来られたおじいさんは昭和南海地震・津波の体験者で、その体験談を話されました。これまでの番組とは一味違ったものでした。

濱口大明神縁起 (その6)

濱田康三郎(かわせみより)

ハマグチの大きな藁葺きの家は、入り江を見下す小さい台地の縁にありました。此の大地は、大部分は稲田に切開かれ、三方は鬱蒼と樹木の生え繁った峰々にとり囲まれていました。土地はその外側の縁から、さながらめぐりとられたように、水際までずっと大きい緑の中窪になって傾斜し、そしてこの斜面の全体は、彼是四分の三里もの間、段々になっていて、遥かの沖合から見ると、真中のところに細い白い雁木形の筋——山道のうねり——の入った、大きい緑色の階段そっくりでした。村の中心をなす九十軒の藁葺の人家と一座の神社とが、入江の曲線に沿うて立ち、そしてそれ以外の家々は長者の家へ通じる狭い道路の両側にちらほらと、斜面を上の方へ、数町の間散在していました。

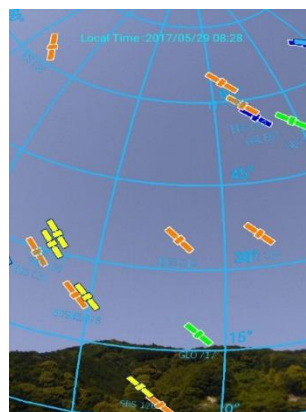
或る秋の日の夕方、ハマグチ・ゴヘイは自分の家の縁側から、下の村のお祭の色々な準備を見下ろしていました。その年は米の出来が非常によかったので、百姓達は氏神の広庭でお祝いの豊年踊りをする筈になっていたのです。老人は一本筋の大通りの屋根々々の上にはためくお祭の幟や、竹の竿と竿との間に吊るし連ねた紙提灯の列や、お社の様々な装飾や、若い衆達の派手な衣装をつけた集団を見ることが出来ました。彼はその晩は今年十歳になる小さい孫息子一人と丈での留守番で、家中の外の者達は皆早くから村へ行っていました。彼自身も、常より少し気分が悪いのでなかったなれば、一緒に出かけてあるところでした。

その日はいやに重苦しい日でした。そして軽い微風の立っているにも拘らず、なほ空気には、日本の農夫の経験によると、ある季節によく地震の前触れをする、あのむっとするむせ暑さがありました。果然、間もなく一揺れの地震が来ました。それは人を驚かせる程に大したものではなかったけれども、今迄に何百度となく地震の経験をしたハマグチには、これはちとけたいだわいと思われました——長い、ゆるやかな、ふわふわする揺れ方だったのでした。多分それ

はずっと遠くの何処かの激震の余波に過ぎなかったのでしょうか。家はきしきしと音を立てて数回ゆるやかに揺れて、それからそれ切り元通りに収まりました。(つづく)

<準天頂衛星システム>

本年6月1日に、H-II Aロケット34号機が打ち上げられ、「みちびき2号機」が軌道に投入されたというニュースが流れました。「みちびき」は今年中にあと2機打ち上げられ、4機態勢になるということです。カーナビを使っている時、大都会のビルの谷間や、山間部でうまく作動されないことがあります。現在のGPS機能を充実させることも出来るようです。



災害時の情報伝達には威力を発揮するようです。家族が別々の避難所へ避難して居る場合でも、「みちびき」を経由して被災者情報、安否情報を伝えることができる。「津波てんでんこ」の言葉どおり、それぞれが一番近くへ避難しても、すぐに安否確認ができるということになる。上の写真は、準天頂衛星システムのシミュレーションで、上空を人工衛星が飛んでいる様子です。

昨年11月5日に、「稲むらの火の館」で実証実験が行われ、避難訓練へ参加した方で体験された方もおられると思います。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター
 〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671
<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>
 *開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)
 *休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
 (世界津波の日の11月5日は開館)
 年末年始(12/29～1/4)
 *記念館だけの入場は無料です。